

タクシーを待ちながら

イーアイオー Yumi

タクシーを待ちながら

登場人物

- ① バスに乗り損ねた人
- ② 通り過ぎていく人
- ③ 通り過ぎていく人
- ④ 通り過ぎていく人
- ⑤ 通り過ぎていく人
- ⑥ 通り過ぎていく人

とある町の、とある島の中の、とある建物の前

いくつかバッグを持った①が、とある建物の玄関から出てくる。

バッグの一つにはお守りが付いている。

バッグの中には一冊の本が入っている。

本には写真が挟んである。

①はバス停の方に歩き出す。

向こうの方から来るタクシーが①の目に止まる。

①は立ち止まりタクシーを拾おうと手を挙げかける。

数人が何か楽しそうに談笑しながら来る。

①の前を通り過ぎてバス停に向かう。

①の前を回送タクシーが通り過ぎる。

間

思い出したかのように①はバス停の方に向かって再び歩き始める。

誰かが急ぎ気味に①を遮るように①を追い越してバス停に向かっていく。

①は思わず足を止める。

バスが曲がって来るのが見える。

①「あー！」

①が戸惑っている間にバス停に停まり、そして発車する。

バスが、①の前を通り過ぎて行く。

問

車を通り過ぎる。

①はモバイル機器を取り出す。

①は何か操作し始める。

少し問

②と③が話ながら出てくる。

②「まさかと思うけどフェリーは大丈夫？」

③「念のため今日は車での乗船予約をしてあるから大丈夫。」

②「さすが、抜かりないね。」

③「なんといつても今夜はミクルのライブだもの。」

楽しそうに話しながら二人は駐車場に向かっていく。

①は去っていく二人を見る。

①はモバイル機器を見ながらつぶやく

①「ミクル・・・」

①は遠くの方を見る

問

モバイル機器で電話をしている①

①「あの～すみません。先週購入したミクルの曲のことなのですが。」

①「番号はQWERTY004です。」

①「はい、そうです。」

②「アカウントが使えなくなつてリセットになったのです。それでダウンロードをもう一度したいのですがどうすればいいのですか?」

③「えっ、できないのですか?」

④「何とかならないのですか?」

⑤「そうですか・・・」

落胆して電話を切る②

問

1台の車が通り過ぎる。

少し間

①が出て来る。

②と③は目が合う。

④は⑤に何か言いたそうにしている。

①「お疲れ様です。カフェコーナーのケーキセットはどうでしたか?」

②「それが押し間違えたのかケーキだけ出てきたのです。」

③「それは残念でしたね。ジュースもお勧めでしたのに。」

④は不思議そうにする。

やや話しくそいな②と③。

①「あの・・・判定通知はすぐ送られてくるとお聞きしているのですが。」

②「まだ届いていないのですか?」

③「はい、まだなのです。」

④「審査に前例がないなど想定外のことがあると処理に時間が少しかかってしまうことがあります。」

⑤「想定外ですか・・・」

⑥「今年導入されたばかりですからね。まあ1時間もしたらくるでしょう。」

④は言葉が続かない。

⑤「後でいい通知が来るといいですね。」

⑥は去って行く。

少し間

⑦はモバイル機器を取り出して見る。

メールは届いていない。

目の前を原付が通り過ぎる。

間

とある暑い夏

あたりには建物もなく日差しが痛い。

⑧は自動販売機の前に立っている。

⑨「あれ？でてこない。」

⑩は自販機に貼られたステッカーをみる。

⑪「故障の際はこちらに連絡をなんて・・・」

間

⑫が出て来る。

⑬「あれ？バスには乗らなかつたのですか？」

⑭「えー、それがバスに乗り損ねたのです。」

⑮「え？間に合う時間に出られたはずですよね。」

④「ええ、でも目の前を通り過ぎちゃって・・・」

⑤「じゃあどうするのですか?」

④「荷物も多いことですしタクシーにしようと思います。さっき楽タクで頼んだのです。」

⑤「楽タクで何ですか? 私はタクシーを使わないので。」

④「何でもワンクリックで自動的に居場所が送信されてタクシーが呼べるみたいですよ。」

⑤「なるほど、それは多分位置情報を使った技術でしょうね。」

④「そうなのですか。」

⑤「このバス停も位置情報を使っているのです。」

④「え? どんな風にですか?」

⑤「この路線を走る営業中の車両から位置情報が発信されます。それがバス停のディスプレイに表示されるのです。」

④「それはわかりやすいですね。」

⑤「これはわが社が提供したのです。」

④「すごいですね。」

⑤「この研究所内にもいろいろ最新のものを取りいれています。」

④「ドアの顔認証ですか。あれは戸惑いました。」

⑤「それだけではありません。」

⑤は得意になり話し始める。

⑤「照明はすべてセンサーです。」

④「うちなんて照明は紐を引っぱっていますよ。」

⑤「清掃もロボット掃除機です。」

④「うちなんかまだ紙パックの掃除機ですよ。」

⑤「床だけじゃなくドローン技術も使って、窓とかいろいろな所を掃除しています。」

④「え。」

⑤「窓は音声認識で開閉します。」

④「え。」

⑤「そしてAI判定です。あなたと面接した相手です。」

④「あれはびっくりしましたよ。」

⑤「リノベーションの時に、中は最新のものにみんな取り換えました。」

④「すごいですね。」

⑤「私の電気自動車も、市販されたら自動運転車に買い替えるつもりです。」

少し沈黙

④は何か言いたそうな風にも見えるが何も言わない。

⑤「じゃあ失礼します。」

⑤は立ち去る。

少し問

目の前を自転車に乗った人が通り過ぎる。

問

④は機器の操作をしている。

音声案内「認識できません。もう一度どうぞ。」

④はカードを入れる。

音声案内「認識できません。もう一度どうぞ。」

④はカードを入れる。

音声案内「不正です。管理者権限が必要です。」

④「えーこれ私なのに・・・」

問

時間がたつ

タクシーは来ない。

待ちくたびれた④は玄関前の敷地内で腰かける。

④は次第に不安になっていく。

人通りも通る車もほとんどない。

次第に暗くなつて行く。

④「何か思い出すかのように海の方をみる。」

⑤「が来て玄関を閉める。」

外には敷地と道路を隔てる柵のような開け閉めできる出入口がある。

⑥「敷地の出入口に向かいかけ④に気が付き声をかける。」

⑦「すみませんがもう閉めます。」

⑧「はい……」

⑨「閉めますよ。」

⑩「はい……」

⑪「腰が重い。」

⑫「どうかしたのですか?」

⑬「あの〜。タクシーをずっと待っているんですけどまだ来なくて。」

⑭「どのくらいですか?」

⑮「もう1時間は超えていると思います。」

⑯「いつどこに頼んだのですか?」

⑰「さあ… 1時間ちょっと前に楽タクで頼んだのでわからないのです。」

⑱「ええ? 楽タクで頼んだのですか。」

⑲「はい。」

⑳「あれはねえ営業所に連絡が行くのです。」

㉑「それで?」

㉒「営業所は本土にあります。」

㉓「え?」

㉔「タクシーは本土の営業所からフェリーでくるのです。」

㉕「だって来る時は港に何台も停まっていますよ。」

㉖「あれは本土の営業所のタクシーです。昼間は島の反対側は多くの観光客がくるので島にいますね。」

㉗「そしてタクシーは夕方のフェリーで営業所に戻ります。1時間ちょっと前に頼んですぐに来ないならもう引き上げたと思います。」

㉘「じゃあこの島のタクシーはないのですか?」



⑥「1台だけ個人タクシーがあります。」

④「1台ですか。」

⑦「はい、1台です。」

③「……………」

沈黙

⑥は手をかける。

④「その1台のタクシーが来るのですよね?」

⑦は手を止める。

⑥「さあどうでしょう? 私にはわかりません。もしかしたら今頃は本土に用事でいつているかもしれません。」

③「……………」

少し間

④は重い腰を上げて敷地の外にでる。

ゆっくりと閉め始める⑥

④「あの…営業所から次のフェリーで来てくれるのでしょうか?」

⑦は手を止める。

⑥「さあどうでしょう。もう引き上げているから、明日になるかもしれません。」

④「え?明日?」

⑥「配車は自動なので時間が過ぎると自動的に明日の扱いになるみたいです。」

③「え?」

㊦「路線検索すると時間が遅いと乗り換え時間が6時間とか7時間になり到着は翌朝とかなることがあるじゃないですか。そんな感じですよ。」

沈黙

㊦は閉め始める。

㊦を引き留めるように㊦は声をかける。

㊦「あっ、営業所に電話して次のフェリーで来てくださいますようお願いしたらいいですね。」

㊦は手を止める。

㊦「今は電話受付をしていません。」

㊦「えっ、そんなあ・・・」

沈黙

再び㊦は閉め始める。

㊦「あゝ・・・」

㊦「すみませんが、用事があつて、もう行かないといけません。」

㊦は出入口を締め切る。

㊦は何も言葉が出ない。

㊦は去る。

間

更に暗くなる。肌寒さを感じます。

メールが来る。

㊦はモバイル機器を取り出してしばらく見つめる。

①「またお祈りメール……」

①は小声でつぶやく

①「お祈りしていますと書かれていても結局不採用。本当は誰もお祈りなんて……」

周りを見ても誰もいない。

もう車も通らない。

すっかり暗くなっている。

向こうのほうに対岸の街の明かりが見える。

①は対岸の街の明かりを眺める。

そして暗い海を見る。

悲しくて涙が出てくる。

①は本をとりだして大事そうに抱える。

間

向こうから光が近づいてくるのが見える。

おわり